

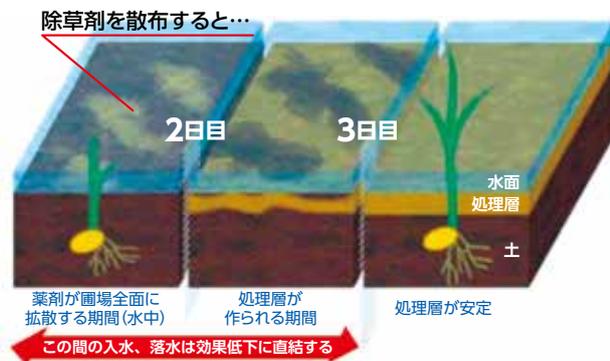
除草剤使用の際は、ラベルの注意事項までしっかりと確認しましょう。除草剤の有効成分は土壌表面に処理層を作ることによって効果を発揮します。処理層を壊さないために使用時や使用後の水管理が重要となります。

- 水稲用除草剤に貼付されているラベルには使用基準や使用上の注意事項が記載されていますので、その内容を遵守して使用する必要があります。
- 使用時の水深は5cm以上。特に、ジャンボ剤・フロアブル剤は必ず5～6cmの湛水状態を保って下さい。また、藻・浮草が発生していると、拡散が不十分となり効果が劣ることがありますので、使用時期の範囲内で早めに散布してください。



## ●水稲除草剤の効果の仕組み

田植え時期に使用する初期剤や初中期一発剤と呼ばれる除草剤は、土壌表面に処理層をつくり、雑草の発生を抑えます。



## 処理層をしっかり作るための水管理 (注意点)

- ①除草剤がよく拡散するように、十分な湛水状態にしてください。
- ②除草剤散布後3～4日間は通常の湛水状態を保ってください。
- ③散布後7日間は落水・かけ流しをしないでください。
- ④除草剤散布後は田んぼに入らないでください。散布後の補植はしないでください(除草剤散布前に済ませる)。
- ⑤水持ちが悪いほ場でやむを得ず入水するような場合はなるべく静かに入水してください。



散布後、処理層が形成・安定するまで約3日間かかります。この間の急激な入水・落水は効果の低下に直結します。

3日間は湛水を保つことを心がけ、7日間の止水管理を守りましょう。



**令和5年 春の農作業安全運動展開中!**  
4月1日(土)～5月31日(水)は農作業安全運動月間です。